

平成 19 年 7 月 10 日

燃料油高騰の運賃転嫁状況アンケート調査結果について
(平成 19 年 4 月現在)

日本内航海運組合総連合会
運賃・用船料委員会

・アンケート実施概要

アンケート実施期間 平成 19 年 4 月 3 日～5 月 2 日

(前回調査)平成 18 年 10 月 3 日～11 月 10 日

対象事業者数：200 事業者(内航総連合会調査による元請ホ^レター 237 社中上位 200 社)

回答事業者数：112 事業者(前回調査 138 事業者)

有効回答率：56% (前回調査 69%)

捕捉率：年間輸送量ベース 82% (前回調査 86%)

(回答事業者の平成 17 年度年間輸送量(389,596,308t)

÷17 年度内航船全輸送量(474,855,713t):内航総連合会調査)

：年間消費量ベース 83% (前回調査 87%)

(回答事業者の平成 18 年度年間燃料消費量(2,279,492KL)

÷17 年度内航輸送船舶統計年報による年間消費量(2,743,393KL)

・調査結果の概要

(1) 全体調査

平成 17 年 3 月末(A 重油 40,900 円/KL C 重油 30,800 円/KL)と平成 19 年 3 月末(A 重油 58,400 円/KL C 重油 48,900 円/KL)との価格差 A 重油 17,500 円/KL C 重油 18,100 円/KL の荷主への転嫁率は、石油(+24%)、自動車(+48%)、一般貨物船鋼材以外(+20%)、RORO・コンテナ(+5%)の向上が大きく寄与し、全品目の平均は 66%と前回調査時の 51%から大幅に改善した。

しかし、転嫁率が 20%未満の該当事業者は、27 事業者あり、回答事業者の 1/4 を占めている。(0%のもの 15 社(13%)を含む。)

(2) 品目別調査

転嫁率の高い品目は、コスト保証方式を採用しているセメント(100%)、石灰石(92%)及びバンカーサーチャージ方式を契約条件に導入している一般貨物船鉄鋼(71%)となっている。

転嫁率の低い品目は、一般貨物船鋼材以外、ケミカルとなっている。

転嫁方法としては、バンカーサーチャージ方式が前回調査より 9%上がって、70%となった。これはバンカーサーチャージ方式による事業者が増えた RORO・コンテナ船貨物、その他の割合が高くなったためである。

また、一般貨物船鋼材以外、ケミカル、特殊タンク、自動車、その他等の品目で運賃

値上げ方式の比率が上がっている。特に一般貨物船鋼材以外、自動車において、運賃値上げによる転嫁割合が高くなった。

満足度としては、現状の転嫁状況について該当件数の 5 割が不満となっている。また、転嫁されていない件数が 46 件 (18%) となっている。

・調査結果

1. 燃料油の年間消費量について

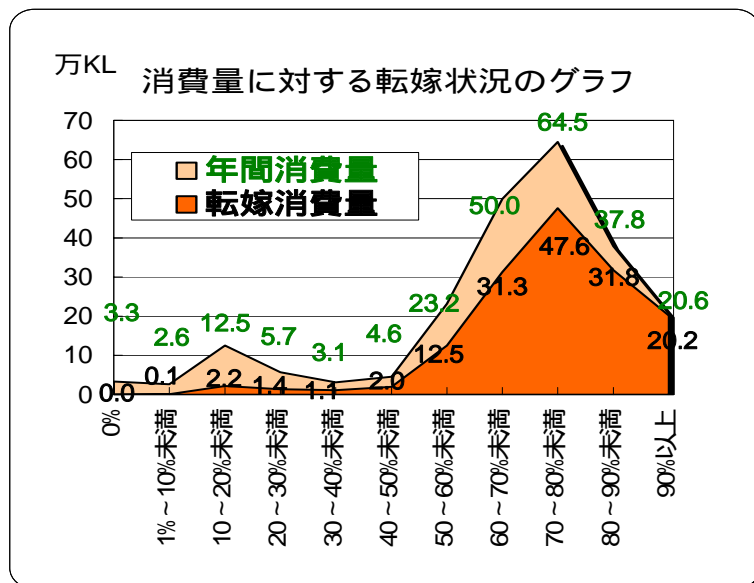
調査時期	A重油		C重油		(単位:KL)
	消費量	割合	消費量	割合	計
平成18年10月	633,744	27%	1,744,344	73%	2,378,088
平成19年4月	538,676	24%	1,740,816	76%	2,279,492

今回の調査で有効回答のあった内航主要オペレーター112社(全輸送量の82%)の年間消費量は、約228万KLとなり、平成17年度内航船舶輸送統計年報による年間消費量約274万KLの83%となる。

2. 燃料油価格値上がり分の転嫁状況

転嫁割合	平成19年4月調査						平成18年10月調査					
	年間消費量		転嫁消費量		該当社数	割合	年間消費量		転嫁消費量		該当社数	割合
	消費量	割合	消費量	割合			消費量	割合	消費量	割合		
0%	33,045	1%	0	0%	15社	13%	37,384	2%	0	0%	17社	12%
1%~10%未満	26,325	1%	950	0%	7社	6%	220,796	9%	8,309	1%	20社	14%
10~20%未満	125,296	5%	22,041	1%	5社	4%	105,153	4%	18,723	2%	3社	2%
20~30%未満	57,234	3%	13,700	1%	4社	4%	108,733	5%	25,314	2%	9社	7%
30~40%未満	31,168	1%	11,243	1%	5社	4%	106,755	4%	39,312	3%	12社	9%
40~50%未満	45,882	2%	20,313	1%	6社	5%	626,328	26%	255,222	21%	11社	8%
50~60%未満	231,568	10%	125,110	8%	17社	15%	206,342	9%	112,770	9%	15社	11%
60~70%未満	499,654	22%	312,687	21%	12社	11%	321,046	14%	209,591	17%	11社	8%
70~80%未満	645,117	28%	475,841	32%	15社	13%	280,699	12%	203,771	17%	10社	7%
80~90%未満	378,279	17%	317,620	21%	10社	9%	168,316	7%	141,194	12%	11社	8%
90%以上	205,924	9%	201,697	13%	16社	14%	196,536	8%	194,333	16%	19社	14%
計	2,279,492	100%	1,501,202	100%	112社	100%	2,378,088	100%	1,208,539	100%	138社	100%
	転嫁率66%						転嫁率51%					

*小数点以下四捨五入のため、%の合計が100%にならない。



転嫁消費量は全体として約150万KLとなり転嫁率は前回は上回り66%と大きく改善した。しかしながら一方で、転嫁率が20%未満の事業者は27事業者もあり全体の25%を占めている。

3. 品目別転嫁状況

(1)品目別に転嫁の程度・転嫁方法・燃料消費量別に集計結果は、つぎのとおりである。但し、品目別の回答は、1事業者が複数回答するため回答件数が回答事業者より多くなる。

全体

(単位:KL、%)

平成19年4月											平成18年10月										
品目名	燃料消費量		転嫁量及び転嫁率			転嫁量内訳(%)					品目名	燃料消費量		転嫁量及び転嫁率			転嫁量内訳(%)				
	該当件数	消費量	該当件数	転嫁量	消費量に対する転嫁率(量)	運賃値上げ	バンカーチャージ	コスト保証	と	該当件数		消費量	該当件数	転嫁量	消費量に対する転嫁率(量)	運賃値上げ	バンカーチャージ	コスト保証	と	と	と
1 RORO・コンテナ船貨物	16	636,201	16	383,824	60%	0%	87%	5%	8%	1 RORO・コンテナ船貨物	18	563,289	17	310,131	55%	10%	53%	1%	32%	0%	4%
2 一般貨物船鋼材以外	42	108,783	32	36,884	34%	60%	32%	8%	0%	2 一般貨物船鋼材以外	51	520,481	39	72,248	14%	23%	52%	0%	25%	0%	0%
3 一般貨物船鋼材	28	335,013	25	236,266	71%	22%	62%	1%	15%	3 一般貨物船鋼材	33	274,620	28	235,090	86%	13%	72%	1%	13%	0%	1%
4 ケミカル	24	81,415	21	34,146	42%	56%	21%	11%	12%	4 ケミカル	23	55,416	20	22,736	41%	36%	16%	6%	36%	6%	0%
5 石油	43	564,787	34	402,836	71%	4%	85%	9%	2%	5 石油	34	471,544	27	221,115	47%	4%	84%	1%	4%	0%	7%
6 特殊タンク	35	104,438	32	66,457	64%	26%	41%	33%	0%	6 特殊タンク	26	100,488	25	58,599	58%	12%	35%	30%	20%	3%	0%
7 砂・砂利	7	5,920	4	3,958	67%	14%	0%	86%	0%	7 砂・砂利	8	10,914	2	3,571	33%	0%	0%	100%	0%	0%	0%
8 石灰石	16	67,489	16	62,013	92%	3%	74%	23%	0%	8 石灰石	16	148,048	15	142,657	96%	1%	87%	4%	1%	0%	7%
9 セメント	15	121,053	15	121,053	100%	0%	8%	92%	0%	9 セメント	20	110,328	20	110,133	100%	3%	9%	88%	0%	0%	0%
10 自動車	7	171,798	6	113,683	66%	48%	52%	0%	0%	10 自動車	4	106,753	4	19,347	18%	5%	95%	0%	0%	0%	0%
11 その他	28	82,595	15	40,083	49%	65%	26%	9%	0%	11 その他	10	16,207	8	12,912	80%	34%	9%	33%	24%	0%	0%
合計	261	2,279,492	216	1,501,202	66%	15%	70%	15%	0%	合計	243	2,378,088	205	1,208,539	51%	9%	61%	12%	15%	0.2%	3%

* %の合計が必ずしも100%にならない場合がある。

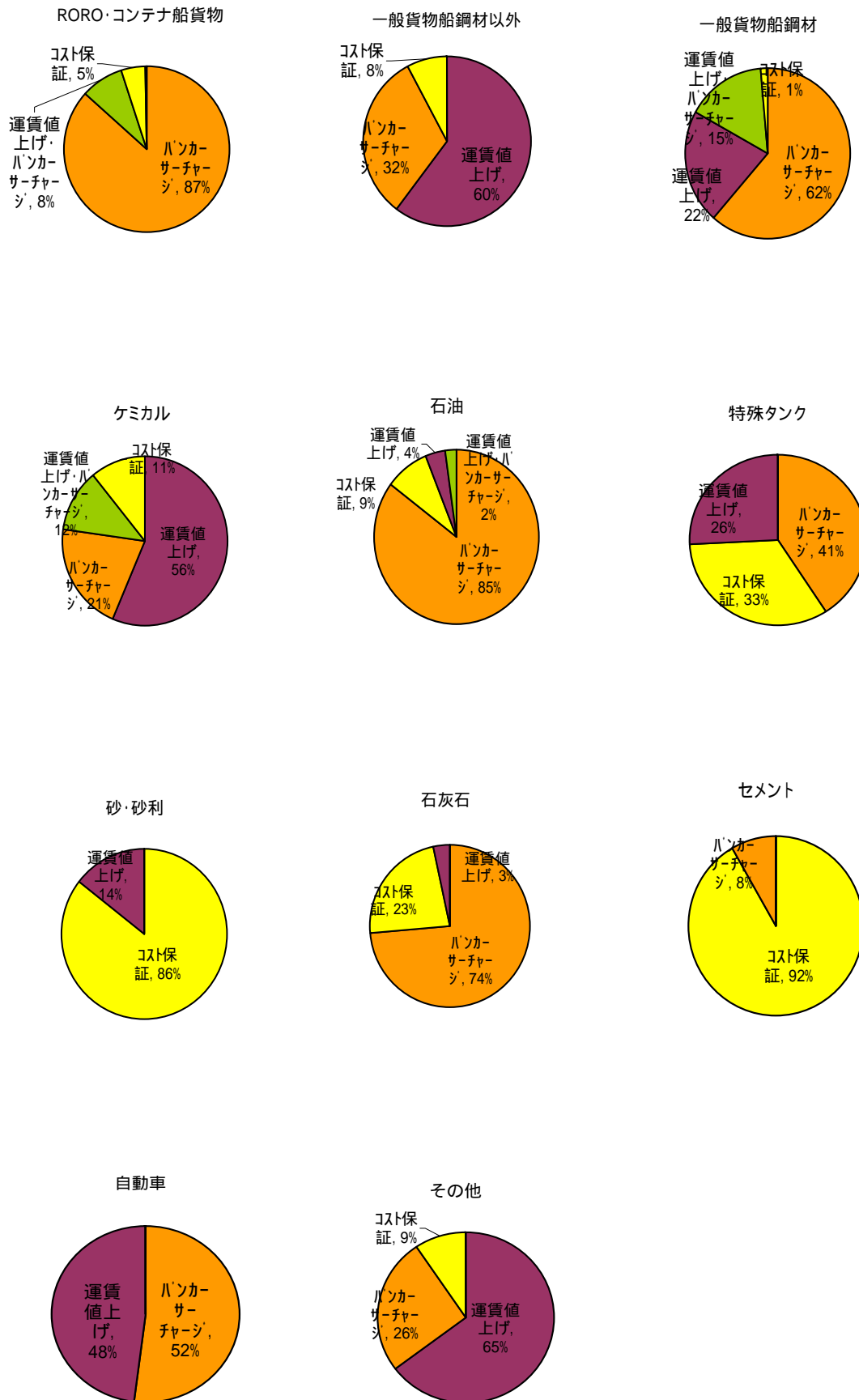
*平成19年4月データについて、小数点第一位以下切り捨てのため、転嫁量があっても0%となっているものがある。

転嫁率が前回調査を上回った品目としては、RORO・コンテナ貨物(55% 60%)、一般貨物船鋼材以外(14% 34%)、石油(47% 71%)、特殊タンク(58% 64%)、砂・砂利(33% 67%)、自動車(18% 66%)の6品目となっている。特に、石油及び自動車は、大手荷主の転嫁率が大幅にアップしたことが大きく貢献している。但し、石油のアップ率向上には、一部前回以前の報告方法に誤りがあり、修正したことも一因である。

対照的に前回調査を下回った品目としては、一般貨物船鋼材(86% 71%)、その他(80% 49%)の2品目となっている。ただし、一般貨物船鋼材の転嫁について、未決定があるとする回答も一部あった点に留意する必要がある。

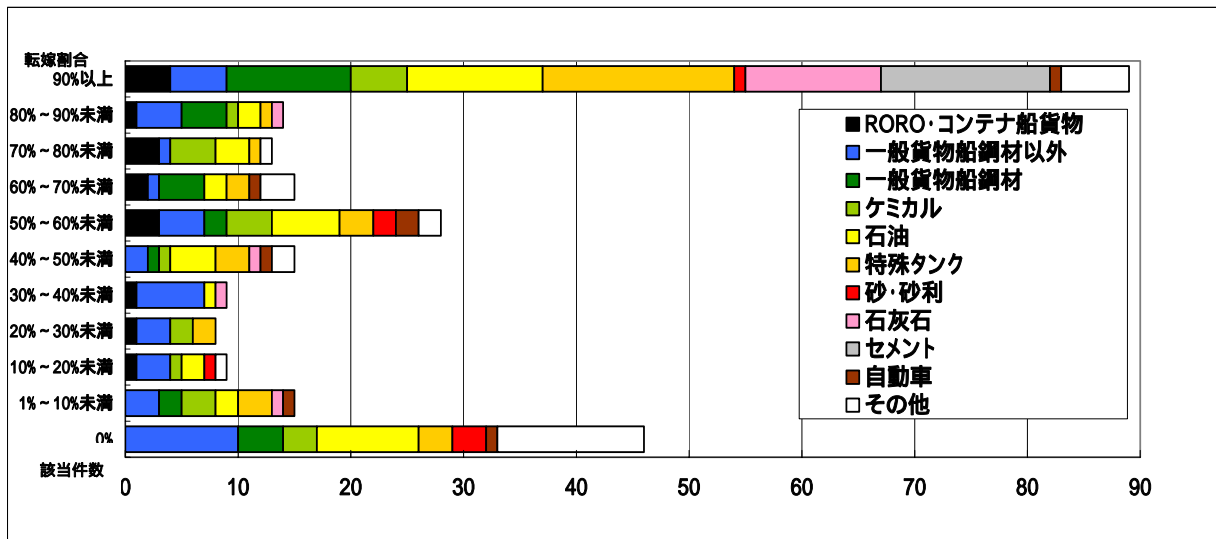
前回とほぼ同じまたは同じ品目としては、ケミカル(41% 42%)、石灰石(96% 92%)、セメント(100% 100%)の3品目となっている。

(2) 品目別転嫁方法の傾向について



(3) 品目別転嫁割合の該当件数について

品目/転嫁割合	0%	1%~10%未満	10%~20%未満	20%~30%未満	30%~40%未満	40%~50%未満	50%~60%未満	60%~70%未満	70%~80%未満	80%~90%未満	90%以上	計
RORO・コンテナ船貨物	0	0	1	1	1	0	3	2	3	1	4	16
一般貨物船鋼材以外	10	3	3	3	6	2	4	1	1	4	5	42
一般貨物船鋼材	4	2	0	0	0	1	2	4	0	4	11	28
ケミカル	3	3	1	2	0	1	4	0	4	1	5	24
石油	9	2	2	0	1	4	6	2	3	2	12	43
特殊タンク	3	3	0	2	0	3	3	2	1	1	17	35
砂・砂利	3	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	7
石灰石	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	12	16
セメント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15
自動車	1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	7
その他	13	0	1	0	0	2	2	3	1	0	6	28
計	46	15	9	8	9	15	28	15	13	14	89	261



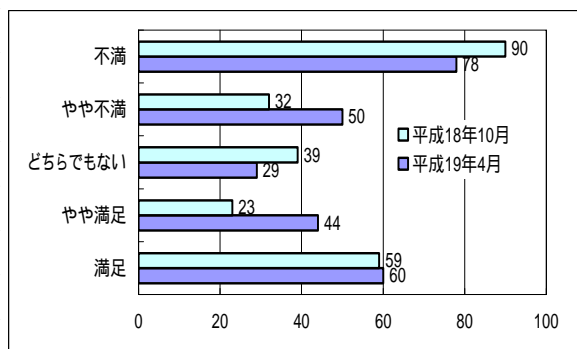
4. 運賃への転嫁の現状に対する事業者の各品目別満足度について

(1) 全体

前回調査に比べて満足・やや満足の割合が8%増加した。

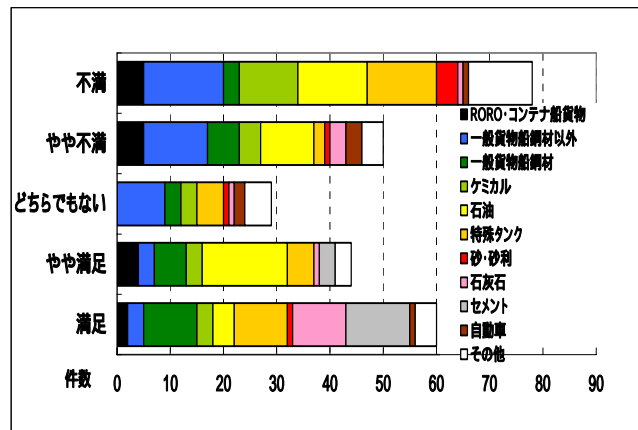
不満・やや不満は前回調査とほぼ同様の49%となり、全体の件数の約半数が不満と感じている。

現状	平成19年4月		平成18年10月	
	該当数	%	該当数	%
満足	60	23%	59	23%
やや満足	44	17%	23	9%
どちらでもない	29	11%	39	15%
やや不満	50	19%	32	12%
不満	78	30%	90	34%
合計	261	100%	243	93%



(2) 品目別満足度の割合について

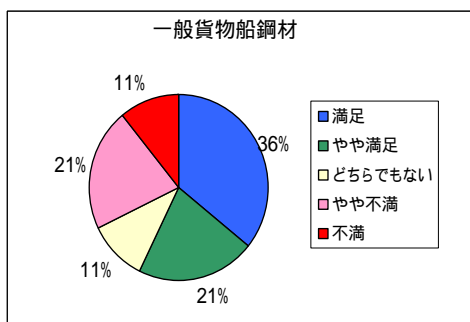
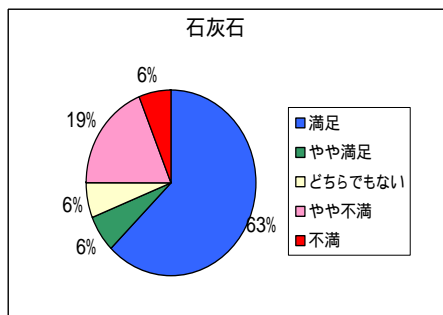
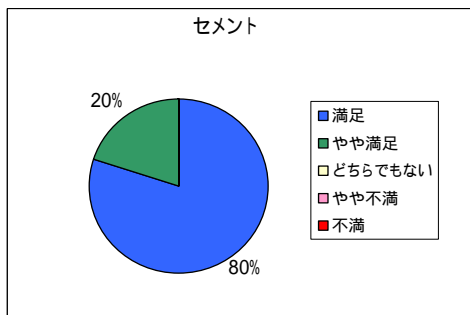
品目	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
RORO・コンテナ船貨物	2	4	0	5	5
一般貨物船鋼材以外	3	3	9	12	15
一般貨物船鋼材	10	6	3	6	3
ケミカル	3	3	3	4	11
石油	4	16	0	10	13
特殊タンク	10	5	5	2	13
砂・砂利	1	0	1	1	4
石灰石	10	1	1	3	1
セメント	12	3	0	0	0
自動車	1	0	2	3	1
その他	4	3	5	4	12
計	60	44	29	50	78
構成比	23%	17%	11%	19%	30%



石油、特殊タンクは満足度、不満足度の傾向に二極化が見られる。これは転嫁割合別品目の傾向で明らかになっているように、同じ品目の中でも各事業者の転嫁内容にバラツキがあることを示している。ただし、一般貨物船鋼材については、満足度の高さが見受けられた。

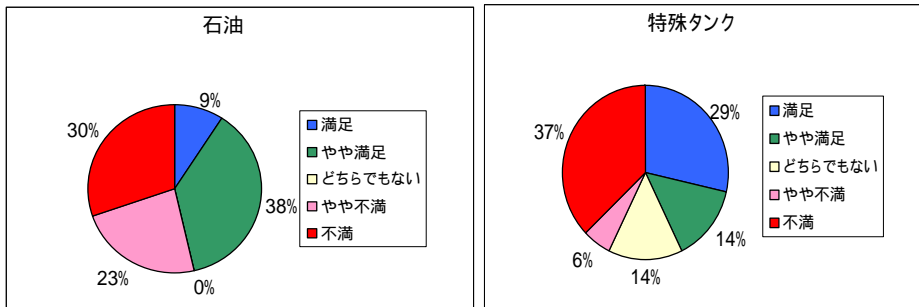
満足度を品目別に見ると次表のとおりである。

A. 満足度の高い品目（セメント、石灰石、一般貨物船鋼材）



コスト保証またはバンカーサーチャージ方式が定着しているセメント及び石灰石の転嫁率は、それぞれ 100%、92%もあり、一般貨物船鋼材については、前回の 86%から 71%へ転嫁率は低くなったものの、満足度は 12%高くなっている。

B.満足度にバラツキがある品目（石油、特殊タンク）



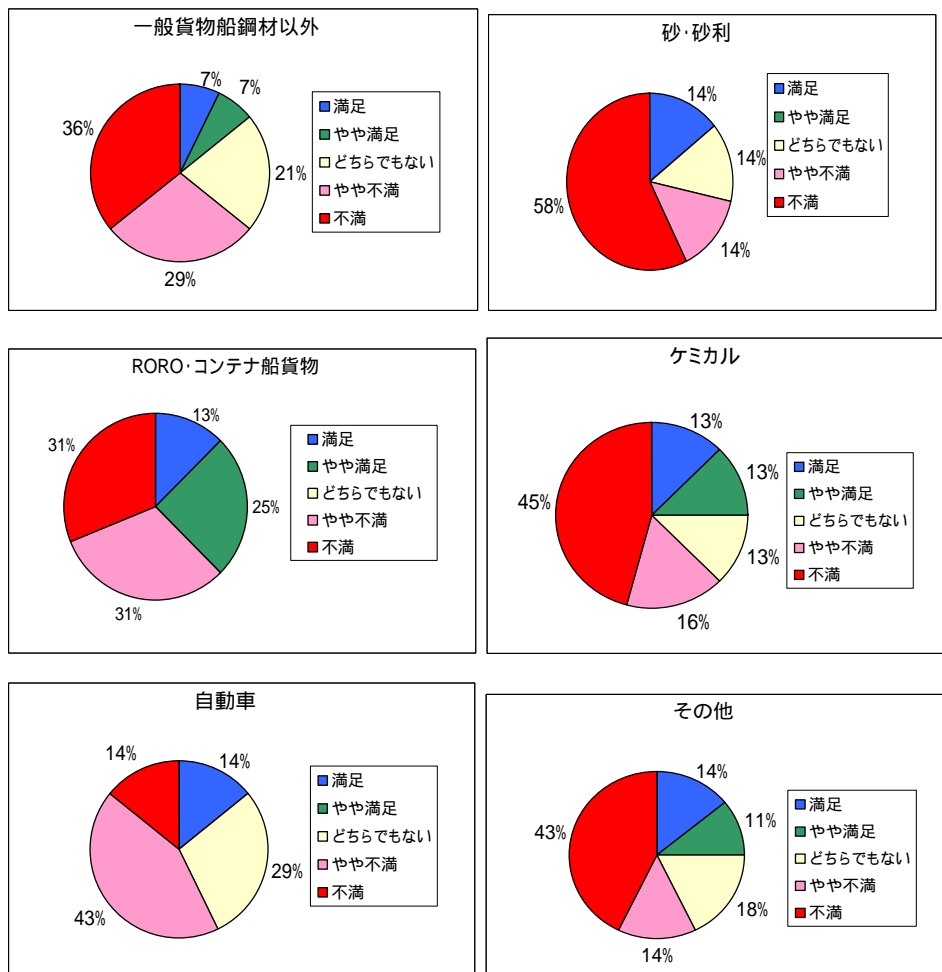
石油、特殊タンクの2品目は、転嫁状況が種々に及んでいるため、満足度も複雑になり、分散傾向にある。

また、石油については、バンカーサーチャージ方式によるものが85%となっており、転嫁率も71%と前回より24%改善している。しかし、転嫁率が10%未満のものが11件あり、うち0%は9件あるため、不満度が高くなっている。

特殊タンクは、前回の58%から64%へ改善しているにもかかわらず、不満度は高くなっている。

C.満足度の低い品目

（一般貨物船鋼材以外、砂・砂利、RORO・コンテナ船貨物、ケミカル、自動車、その他）



砂・砂利、RORO・コンテナ船貨物は、前回より転嫁率の改善が見られ、満足度についても不満からやや不満へ改善している。

しかし、一般貨物船鋼材以外は、前回より20%転嫁率が高くなったものの、転嫁率は34%と極めて低いため、事業者の不満度が高くなっている。

自動車についても、転嫁率は改善しているが、不満度が前回よりも高くなっている。

以 上